



家族が一番のごち走

新潟県上越教育大学附属小学校六年

池田 寛菜

「おばあちゃん、準備出来た?」

私のおばあちゃんは、大阪で一人暮らしをしています。おばあちゃんは、夏休みになると、私たち家族が遊びに行くことを楽しみに待つてくれます。ごち走を作つて、みんなでご飯を食べることが大好きだからです。

でも、去年も今年も、コロナの影響でおばあちゃんの家に行けませんでした。私は、おばあちゃんがきちんとご飯を食べているから心配で、夏休みに何度も電話をしました。

「ばあちゃん、ちゃんと食べてる?」

「暑くてご飯が入らんわ。」

おばあちゃんの声は、弱そうで力がありませんでした。いつも聞く、「にぎやかで嬉しいわ。楽しいから、ついつい食べ過ぎてしまうわ。」と笑いながら話す、明るいおばあちゃんの声と違つて、とても心配になりました。お母さんに相談したら、

「時間を決めて、同じ時間に、テレビ電話しながら食べるのはどう?」

と、言されました。私は、面白いと思い、おばあちゃんを誘いました。早速、日曜日の夜七時に始めることにしました。おばあちゃんは、「食べてくれる人がおらんど、作るのが大義」というのが口ぐせだったので、作るおかずのテーマも決めることにしました。

最初のテーマは、「ご当地食材」です。新潟と言えば、お米。それに、新潟の夏野菜、枝豆。そこで私は二つを組み合わせた「枝豆入りライスコロッケ」を作ることに決めました。おばあちゃんに発表すると、「じゃあおばあちゃんはたこ焼きコロッケにするわ。初めて作るわ。どないなるかな。」

と言つて、笑いながら答えてくれました。私は、お母さんに作り方を教わりながら、ライスコロッケを作りました。「ばあちゃん、こちら準備出来ました。」

電話がつながったおばあちゃんに、私が作つたライスコロッケを紹介しました。おばあちゃんも、特製「たこやきコロッケ」を見せてくれました。

「いただきます。」

大阪と新潟で、ご飯タイムが始まりました。

「たこ焼きだけで食べた方がええわ。」

おばあちゃんの感想に、大阪と新潟で大笑いしました。最後におばあちゃんが、

「久しぶりににぎやかなご飯で、おいしかったわ。いっぱい食べたわ。ありがとうな。」

と言つてくれました。

どんなにおいしいご飯でも、みんなで囲むご飯の方が何倍もおいしいことを、私はまだ知りません。でも、おばあちゃんの声の元気さで、少しだけ分かつた気がします。家族で食卓を囲んで食べるご飯が、一番のごち走なんだって。

「来年こそは、みんなで一緒にご飯を食べようね、おばあちゃん。」